

第八十一回帝國議會 院 昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲 委員會會議錄(速記)第二回

昭和十八年二月三日(水曜日)午後一時九分 開議

- 出席委員左ノ如シ
委員長 矢野庄太郎君
理事大橋清太郎君 理事南 鐵太郎君
赤間 德壽君 伊藤 五郎君
長内 健榮君 金光 邦三君
坂口平兵衛君 鈴木 忠吉君
田部 朋之君 高木 義人君
高梨 乙松君 遠山 暉男君
中西 敏憲君 森川 仙太君
森部 隆輔君
出席國務大臣左ノ如シ
大藏大臣 賀屋 興宣君
出席政府委員左ノ如シ
臺灣總督府財務局長 中嶋 一郎君
大藏書記官 河野 一之君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)
營繕用品資金特別會計法案(政府提出)
造幣局ノ資金ニ關スル法律案(政府提出)
昭和十五年法律第六十九號中改正法律案(大東亞戰爭ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)
樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案(政府提出)
昭和十二年法律第八十號改正法律案(通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル件)(政府提出)
朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)
朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法

案(政府提出)

臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)
臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)
案(政府提出)

○矢野委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、本委員會ノ審査決定ニ付託セラレテ居リマス。議案ハ昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル件外九件デゴザイマス、審議ニ入ルニ先立チマシテ政府ノ説明ヲ求メマス

○賀屋國務大臣 本委員會ニ付託ニ相成リマシタ。昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外九件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明申上ゲマス

先ヅ昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付キ申上ゲマス、昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ト

付託議案
昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)(第二二號)
營繕用品資金特別會計法案(政府提出)(第二三號)
造幣局ノ資金ニ關スル法律案(政府提出)(第二四號)
昭和十五年法律第六十九號中改正法律案(大東亞戰爭ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)(第二五號)
樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案(政府提出)(第二六號)
昭和十二年法律第八十號改正法律案(通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル件)(政府提出)(第二七號)
朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)(第二八號)
朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法案(政府提出)(第二九號)
臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)(第三〇號)
臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)(第三一號)

致シマシテハ、現行ノ震災善後公債法及ビ道路公債法ニ依ル公債ヲ發行致シマスル外、歳入ノ不足ヲ補填スル爲メ十四億六千九百萬圓ヲ限リ公債ノ發行ヲ要シマスルノデ、其ノ起債ノ權能ヲ得ル必要ガアルノデアリマス、即チ昭和十八年度一般會計ノ歳出總額九十九億九千五百五十餘萬圓ニ對シ、普通歳入八十一億七千六百九十餘萬圓並ニ前年度剩餘金三億三千二百餘萬圓ヲ充當シテ、尙ホ不足スル十四億八千八百三十餘萬圓ハ公債財源ニ依ルノ必要ガアルノデアリマシテ、此ノ内現行ノ公債法ニ依リ調達シ得マスル震災善後公債分百餘萬圓及ビ道路公債分千八百三十餘萬圓ヲ差引キ、十四億六千九百萬圓ヲ限リ起債スルノ必要ガアルノデアリマス、尙ホ從來ノ例ニ依レバ昭和十八年度歳出豫算中若干ノ金額ハ翌年度ニ繰越

サルル結果ニナルデアラウト存ゼラレマスル處、其ノ繰越額ノ財源タル公債ハ必ズシモ之ヲ昭和十八年度内ニ於テ發行スルノ必要ハアリマセヌノデ、之ヲ其ノ翌年度ニ於テ發行シ得ルコトトスルノヲ適當ト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

次ニ營繕用品資金特別會計法案ニ付キ説明致シマス、大藏省營繕管財局ニ於テ、其ノ司掌スル營繕事業ヲ經營致シマスニ付キマシテ必要ナル營繕用品ハ所謂統制物資デアリマス爲メ、是ノ入手ガ圓滑ニ參リマセヌ爲ニ營繕事業ノ遂行ニ際シ屢、其ノ圓滑ナル進捗ヲ害セラルルノ狀況ナルニ願ミマシテ、營繕用品ヲ適宜ノ時機ニ購入シ、之ヲ貯藏加工致シマシテ、隨時適切ニ、本事業ノ需用ニ應ズルコトト致シマス等ノ必要上、營繕用品資金ヲ設置スル必要ガアルノデアリマスガ、其ノ歳入歳出ハ、之ヲ一般會計ト區分經理スルノ必要ガアリマスノデ、特別會計設置ニ關スル本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス

次ニ造幣局ノ資金ニ關スル法律案ニ付キ説明致シマス、造幣局ニ於ケル事業量ハ、近時著シク増大致シテ參リマシテ、從來ノ造幣局据置運轉資本額四百萬圓ヲ以テシマシテハ、本事業ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト困難ナル狀況トナリマシタノデ從來ノ据置運轉資本ニ、更ニ二千六百萬圓ヲ増加シテ、之ヲ三千萬圓ト致サントスルノデアリマス、而シテ此ノ資本ノ増加ニ充當致シマスル財源ハ、造幣局資金ノ内ヨリ使用スルノヲ適當ト認メマシテ、昭和十八年度以降ニ於テ、漸次ニ造幣局資金ノ内ヨリ、所要ノ金額ヲ繰入レ得ルコトト致シタイノデアリマスガ、

資本ノ増加及ビ資金ノ使用ニ付キマシテハ、法律ヲ制定シテ其ノ遂行ヲ拓クノ必要ガアルノデアリマス

次ニ同局ノ事業ノ擴張ニ伴ヒマスル廳舎、工場其ノ他ノ建物及ビ其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ付キマシテハ、從來昭和十五年度ヨリ同十九年度ニ互ル繼續事業トシテ施行中デアリマシテ、其ノ經費總額二千三百五萬八千七百七十五圓ノ財源ハ、之ヲ造幣局資金ノ内ヨリ拂出シ、一般會計ニ繰入レ得ルコトト相成ツテ居ルノデアリマスガ、今回前ニ申述ベマシタ通り、事業量ノ増大ニ伴ヒマシテ、更ニ造幣局ノ工場等ヲ新設又ハ擴張スル等ノ必要ガ生ジマシタル爲メ、之ヲ昭和十八年度ヨリ同二十年度ニ互ル繼續事業ト致シマシテ、之ニ關スル經費總額六千七百七十九萬六千七百圓ヲ増加スルノ必要ガアリマスル處、既定ノ繼續事業ニ付キ節減致シマスル額三萬六千五百九十六圓ヲ差引キマシテ、純増加額六千七百七十六萬四圓ノ財源ハ、之ヲ造幣局資金ノ内ヨリ拂出シ、一般會計ニ繰入レ得ルコトト致シ等ノ必要ガアルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス

次ニ昭和十五年法律第六十九號中改正法律案ニ付キ説明致シマス、大東亞戰爭ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債ノ發行ハ現行ノ昭和十五年法律第六十九號ニ依リ昭和十五年乃至同十七年度中ニ一時賜金賜與ノ發令アリタル者ニ對シ交付スル場合ニ限ラレテ居リマスルガ、右公債ハ昭和十八年度ニ於テ一時賜金賜與ノ發令アリタル者ニ對シテモ之ヲ發行交付シ得ルコトトスルノ必要ガアリマスノデ、昭和十五年法律第

六十九號中改正ニ關スル本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

次ニ樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案ニ付キ説明致シマス、樺太内地行政一元化ニ依リ、樺太廳ニ於ケル氣象、海軍、航空、通信、陸運等ニ關スル事務ハ、昭和十八年度ヨリソレソレノ文部省、逓信省又ハ鐵道省ニ移管セラルルコトト相成リ、之ニ伴ヒマシテ、通信事業及ビ鐵道事業所屬ノ財產ハ、之ヲ通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ資本ニ編入致シマスルト共ニ、樺太事業公債法ニ依リ、從來樺太ニ於ケル通信事業及ビ鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲メ發行致シマシタ公債等ヲ、爾今通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ負擔ト致シマスル外、樺太廳特別會計ト一般會計、通信事業特別會計、帝國鐵道特別會計等トノ間ニ於テ、會計ニ關スル種々ナル關涉事項ヲ生ジマスルノデ、是ガ處理上ノ必要ニ基キマシテ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス

次ニ昭和十二年法律第八十號中改正法律案ニ依リ、從來厚生大臣ノ管理ニ屬シテ居リマシタ簡易生命保險及ビ郵便年金ニ關スル事務ハ、之ヲ逓信大臣ノ管理ニ屬セシムルコトトナリマシタノト、逓信省ノ逓信局及ビ郵便局ニ於ケル簡易生命保險及ビ郵便年金事務ノ管理ニ關スル事務ハ、之ヲ逓信大臣ノ管理ニ屬スル簡易保險局ニ於テ取扱フコトト相成リマシタノト尙ホ又逓信局及ビ郵便局ニ於ケル簡易生命保險及ビ郵便年金事務ノ取扱ニ關シ生ズル收入ハ之ヲ事務取扱ノ便宜上、通信事業特別會計ノ所屬ト致シマスル等トノ爲メ昭和十二年法律第八

十號ヲ改正スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス

次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案ニ付キ説明致シマス、朝鮮總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費タル鐵道建設及ビ改良費、道路修築改良費及ビ港灣修築改良費等ノ追加額其ノ他五億五千九百六十餘萬圓ニ付キマシテハ同特別會計歳計ノ現狀並ニ其ノ經費ノ性質ニ願ミマシテ之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマシタル所、道路修築改良費等ノ既定額ノ内、昭和十七年度ニ於テ公債財源ニ依ル豫定ノモノニ決算上不用トナスベキモノ等ガ四百三十餘萬圓アリマスル爲メ差引五億五千五百三十萬圓ガ現行ノ朝鮮事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスノデ本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

次ニ朝鮮簡易生命保險及ビ郵便年金特別會計法案ニ付キ説明致シマス、今回新タニ朝鮮總督府ニ於テ郵便年金事業ヲ經營スルコトト相成リマシタノトニ伴ヒマシテ、之ニ關スル歳入歳出ヲ特別ニ經理スル必要ガアルノデアリマスガ、經理事務ノ簡捷ヲ圖リマス爲メ、現ニ同總督府ニ於テ經營致シテ居リマスル簡易生命保險事業ノ歳入歳出ト併セ經理スルノガ適當ト認メラレルノデアリマス、而シテ是ガ爲ニハ朝鮮簡易生命保險特別會計ヲ廢止シ、新タニ簡易生命保險及ビ郵便年金ノ兩事業ヲ通ズル一特別會計ヲ設置スルノ必要ガアリマスノデ、之ニ關スル本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス

次ニ臺灣事業公債法中改正法律案ニ付キ説明致シマス、臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ追加致シマシタ新高港第二期工事施行ニ要スル經費千五百五

十萬圓竝ニ既定繼續費鐵道改良費及ビ大甲溪開發事業費ノ追加額千九百二十餘萬圓デアリマスガ、内七百五十餘萬圓ヲ公債ニ依ル必要ガアリマス、其ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キマシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ヲ公債財源ニ依ルコトト計畫致シタノデアリマス、然ル所鐵道改良費等ノ既定額ノ内、昭和十七年度ニ於テ公債財源ニ依ル豫定ノモノニ決算上不用トナスベキモノ等ガ八百餘萬圓アリマスル爲メ、差引千五百十萬圓ダケ現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

次ニ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ニ付キ説明致シマス、臺灣官設鐵道用品資金ハ、現行ノ臺灣官設鐵道用品資金會計法第二條ノ規定ニ依リマスレバ、二百萬圓ト相成ツテ居ルノデアリマスガ、臺灣ニ於ケル鐵道及ビ自動車交通事業ノ事業量ノ増大ニ伴ヒマシテ、臺灣官設鐵道用品資金特別會計ニ於ケル歲入歲出モ亦逐年増加致シテ參リマシタ爲メ、從來ノ資金額ヲ以テシマシテハ、其ノ十分ナル機能ヲ發揮スルコト困難ナル狀況ト相成リマシタノデ、本資金ノ法定額ヲ五百萬圓ニ増額ヲ致シマシタ、隨テ從來二百萬圓デアリマスルカラ、増加所要額三百萬圓ハ之ヲ増加スルノ必要ガアルノデアリマス、隨テ今後鐵道自動車等ノ事業量ノ増加ノ狀況ニ應ジマシテ、又臺灣總督府ノ財政ノ許容スル所ニ從ヒマシテ、漸次ニ三百萬圓ヲ繰入レテ來ルコトト致シタイト存ズルノデアリマス、仍テ之ニ關シマスル本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス

以上十件ノ法律案ニ付キマシテハ何卒御審議ノ上速カニ御賛成ヲ御願ヒ致シタイト存ジマス

○矢野委員長 各案ノ審議ニ付キマシテ、政府御當局竝ニ委員各位ニ一言申上ゲマス、政府ニ於ケレマシテハ、申上ゲルマデモナク此ノ各案ハ豫算ト關聯スルモノガ頗ル多イノデアリマスノデ、豫算委員會ニ御提出ニナリマスル審議ノ資料ハ、當委員會ニモ御提出ヲ願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ委員各位ニ申上ゲマスガ、委員各位ニ於テ審議ノ爲メ必要トサレル參考資料ハ、便宜書面ヲ以テ委員長ノ手許ニ御提出ヲ願ヒマス、尙ホ明日カラ引續キ委員會ヲ開キタイト存ジテ居リマスガ、委員各位ニ於テ質問御希望ノ方ハ委員長ノ手許マデ後刻御申出ヲ願ヒマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後一時三十分散會

昭和十八年二月三日印刷

昭和十八年二月四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局